

「令和元年度県内医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査」 結果の概要（厚生労働省実施）

1. 対象：病院

2. 調査内容

【調査票A】受入体制の把握（令和元年9月1日時点の院内の状況）

【調査票B】受入実績の把握（令和元年10月1日～31日に受診した外国人患者）

3. 回答率：70% [H30: 78%]

県内98病院のうち、69病院から回答あり（うち5病院は調査票Bのみ回答）

4. 調査結果

【調査票A】

（1）医療通訳の配置状況

配置しているのは4病院（6.3%）[全国 4.4%] [H30: 4病院]

（2）電話通訳の利用状況

利用しているのは6病院（9.4%）[全国 13.8%] [H30: 7病院]

（3）タブレット端末、スマートフォン端末の利用状況（医療従事者が個人で使用するものは除く）

医療機関として導入しているのは13病院（20.3%）[全国 18.3%] [H30: 8病院]

【調査票B】

（1）在留外国人患者受入状況

受入実績があるのは、外来42病院、入院14病院 [H30: 外来27病院、入院14病院]

（2）訪日外国人（医療渡航を除く）患者受入状況

受入実績があるのは、外来8病院、入院1病院 [H30: 外来6病院、入院1病院]

（3）医療を目的にした訪日外国人患者受入状況

外来又は入院の受入実績があるのは、1病院 [H30: なし]

健診の受入実績がある病院は、なし [H30: 1病院]